

平成 22 年度 第 2 回 CCC 電気通信工学グループ運営委員会 議事概要

I. 日時 : 平成 22 年 10 月 21 日 (木) 午後 2 時から午後 4 時まで

II. 場所 : 私立大学情報教育協会 事務局 会議室

III. 出席者 : 玉野委員、岳委員、越後委員
(事務局) 井端事務局長、森下主幹、野本職員

IV. 議事概要 :

1. 検討内容

参考資料「教育現場に ICT を導入することを考えるシンポジウム」について、これから社会で求められる人物像、学校教育のパラダイムチェンジ（放送型から双方向協働型・チーム学習）の必要性、教育への ICT 導入等についての議論のあったことが紹介され、一同、ICT の教育導入についての議論の時宜性と重要性を確認した。

(i) 学士力実現に必要な ICT 活用の具体的な検討について

前回の議事概要を復習し、今回は昨年度作成の到達目標の 2 番「電気通信関連分野における設計、シミュレーション、プログラミング、試作の一連の流れを実験や実習などを通して理解し、関連の基礎技術を身に付けている」について、事例の紹介を中心に議論することとした。

この到達目標には、アクティブラーニングが適しているとの観点から、A 大学にて実施されている、チームベースラーニング (TBL) が紹介され、少人数教育の欠点である、教員数の増、時間コマ数増などの課題が解消でき、さらに学生同士の教え合い、チーム間競争による学習モチベーションの高揚などの効果も期待できるとの指摘があった。ただ、チームの活動が停滞しないよう、その構成に配慮が必要な点、実施中における脱落者への手当てなどには教員の注意が必要であることも付け加えられた。各チームの成果等をネット掲示板に公表し、また相互評価など意見交換を可能にする ICT の活用が考えられる。

コア・カリキュラムのイメージ「電子回路設計・製作、システム設計、数値解析、各種シミュレータの運用スキル、プログラミング、アプリケーションソフトウェア、ロボット・組み込み技術、インターネットの利用技術など」に関連し、応用ソフトの例、テーマ分野・形態などの例が示されたが、検討は、個別についておこなうことではなく、将来の授業デザインの例示を目指すことを確認した。

PBL 学習の事例として T 大学の学生実験の 1 テーマ「エコ・鹿脅し制御プログ

ラム作成コンテスト」が一連の「制御プログラム作成・組み込み」の学習とともに、学生の人気のある例として紹介された。本件も、各チームの成果等をネット掲示板に公表し、また相互評価など意見交換・発表を可能にする ICT の活用が考えられる。

- (ii) 実施中の授業科目「社会倫理」についての紹介があり、現時点での学生の構成・気質などを考慮しても、学習のモチベーションの高揚と問題意識の発現に助する教育形態が求められるとの認識から、TBL の効用、教員・学生間の相互交流の意義、共に学ぶ姿勢の認識の重要なことなどの意見が述べられ、到達目標第 3「社会基盤である電気通信技術の重要性を理解する中で、自然環境や社会環境との関わりを常に認識し、安心・安全に配慮することができる」に関連するとして、検討してゆくこととした。

本件は、学生が、社会との繋がりや理解と一般人の目線での当該技術の重要性・影響性を理解することを求めているものであり、学生、教員、企業人が一緒に議論することで実現できるものではとの指摘もあった。

また、教養（一般教育と専門教育の区分けでなしに）の学習として専門教育とも深くかわりつつ 1～4 学年の間に教育されるものととらえるべきとの意見も出された。

- (i)(ii) いずれにあっても、授業立ち上げ・実施に伴い、ファシリテータ制度などの教育体制充実が求められるとの指摘があった。

2. 次回までの宿題

到達目標第 2 及び第 3 について、授業モデルの例を 2 件ないし 3 件、準備することとした。

V. 次回の開催日程

平成 22 年 12 月 11 日 14:00～と予定するが、委員の予定も調査して、改めて調整することとした。

以上